

第4回目の採集行は、突然3日間の仕事の空間が出来た。即出発である。思えばアサヒナキマダラセセリの活動の時期と合致するではないか。

アサヒナキマダラの調査に焦点を定め1988年5月18日機上の人となる。

南の島は梅雨の最中で晴れの確率は少ないが、行ってみないとチャンスは得られない。

4回目ともなると不安などどこにもない、石垣島の地形の1つ1つが計画の中に適確に浮上して来る。

民宿に到着すると3人の蝶屋さんの先陣がいた。様子を聞くとアサヒナキマダラの発生は少なく、しかも天気の悪い日が続くので、興味が薄らぎ、もっぱら迷蝶を追っかけているとのことであった。直近の情報は得られず翌朝を待つ。

朝の天気はぱっとしないが初志貫徹。下界は薄日がさしているが梅雨期独特の雰囲気。どんよりとし、目ざすオモト岳は雲の中。「よし」と言う気になれない不満な天候である。

車でオモト岳の登山口へ、車を下りるとショボショボと雨が降っているが、下界は薄日がさしている。標高525mの山頂へアタック開始。

昼なお暗い登山道を1人もくもくと歩く、暗く夜明けの山道のように気持ちの良いものではないが、私には目標がある。この気持ちが何もいない70分の道程りを勇気づけてくれる。

ガスに包まれた山頂へ到着。食草のリウキュウ竹が無造作に風にゆれているのが印象的である。

視界200m 霧雨まじりのコンディション。山頂にあるNHKの鉄塔のそばでリックを背に休んでいると、アサギマダラが風に乗って2頭、3頭と流れて行く。待つこと1時間、11時頃霧をはらって薄日がさす。アサヒナの姿などどこにもない。探し求めて頂上を動きまわっていると、東斜面の空間に日だまりのようになってアカタテハが羽を休めている良いポイントに遭遇した。周囲1面リウキュウ竹の林である。すべての条件が整っていないことはない!!待つこと久しである。

一寸した晴れ間にどこからともなく現われては飛び去るアサヒナキマダラセセりに面会することができた。目標達成である。

☆調査 アサヒナキマダラセセリ 数頭

翌20日には、民宿に同宿した蝶友と竹富島へ。しめった梅雨の太陽が容赦なく照り付ける防風林の道の道をネットを肩にあてもなくさまよう。スジグロ

カバマダラが、何百、何千頭と発生し、ネットを振る気にもならない。そんな中にスケカバとか言うのが1つ2つと混入している。魅力ある蝶でもないがと思いつながらネットイン。村落の垣根の草花には、シロオビアゲハが、まさるともおとらず、へばりついている。何んと蝶の多い島かと感心するばかりである。

そんな中に迷蝶が混入していてラッキーにもネットイン。一途に迷蝶を追っている人には何んだか悪い感じもしたがラッキーとはこんなものかと……。暑い5月の旅は大成果のうちに終る。

☆成果 スケカバ (スジグロカバマダラの翅のすけたもの) 2頭
コウトウマダラ 1頭

次は、いつ、何を。と思いをはせながら……必ず又行くことを誓って報告を終ります。

Takayuki Nigaki 姫路市

ウスイロヒヨウモンモドキの多産例

近 藤 伸 一

岡山県新見市草間台地で採集したウスイロヒヨウモンモドキが、1986年6月23日から7月6日にかけて9卵塊1,842卵を産卵した。母蝶は6月22日採集したもので、プラスチック製の水槽に水さしのオミナエシを入れ、日のあたらない窓際で飼育した。6月中は砂糖水を、7月からはカルピスを1日1回母蝶に与えた。最初に産卵された卵は約2週間後に黒点があらわれ、翌日には変色し、その後一部は孵化したが、ほとんどは卵から脱出出来ずに死亡し、孵化した幼虫も葉に食いつくことなく死亡した。残りの卵もほぼ同様の経過をたどった。

産卵の経過			
6月23日	180卵	6月29日	196卵
24日	241卵	30日	151卵
25日	278卵	7月2日	173卵
27日	294卵	6日	176卵
28日	153卵	11日	母蝶死亡

総産卵数 1,842卵
Shinichi Kondo 神戸市